

令和2年度第3回刈谷市総合教育会議 議事録

1 日 時

令和3年2月17日（水）午後1時30分～午後2時00分

2 場 所

刈谷市役所 502会議室

3 議 題

(1) 刈谷市教育大綱の改定について

4 出席者

市 長	稲垣 武
教育委員会 教育長	金原 宏
教育委員会 委員（教育長職務代理者）	石田 芳加
教育委員会 委員	鶴田 英孝
教育委員会 委員	浅井 優
教育委員会 委員	小川 耕示

5 会議構成員以外の出席者及び事務局

教育部長	宮田 孝裕
教育総務課長	柴田 桂児
教育総務課 課長補佐兼施設係長	山田 芳久
教育総務課 総務係長	安藤 美奈
学校教育課長	木野 昌孝
生涯学習課長	塚本 吉郎
スポーツ課長	加藤 幹雄
企画調整監兼企画政策課長	伊藤 雅人
企画政策課 経営管理係長（書記）	見田 裕子

7 傍 聴 人

1名

1 市長あいさつ

刈谷市長 稲垣 武

皆様、こんにちは。今年度3回目の総合教育会議ということで、お忙しい中、お集まりをいただきまして、誠にありがとうございます。

愛知県も全国的な状況の中で、緊急事態宣言が3月7日まで延長されたわけですが、刈谷市におきましては、最近新たに感染される方が少なくなってまいりまして、昨日とその前はゼロ、ゼロと続き、少し落ち着いてきたという印象でございますが、やはり、安心してまた、というところもございます。

最近はまだ、テレビなどでワクチンについての報道がされておりますが、明日2月18日は3月議会の議案上程ということで、ワクチン接種につきましては、明日18日に予算を上程させていただきまして、即決をお願いしております。その後、実際のワクチンの接種の準備に入っていくということを、議会の方には説明し、ご了承をいただいているところでございます。刈谷医師会のご協力をいただきまして、個別接種と集団接種と併用で準備を進めさせていただいております。かかりつけ医をお持ちの方は、個別接種をやっていただければというお医者さんであれば、そちらで予約をしていただいて接種を受けるということになります。あるいは、市内で2か所くらい、集団で受けられる場所を設定していこうと考えております。これから具体的な場所を決めていくわけですが、そちらの方は、ネットやスマホで予約をして接種していただくという計画をさせていただいております。

現在、予防接種については、そのような状況でございますけれども、前回の緊急事態宣言の時には、学校の方が一斉休校ということになりました。その意味では、生徒さんやご家庭にご迷惑をおかけしたということがあるわけですが、今回は、学校の方は通常通りやっておりますし、このような経験を受けて、昨年6月にはタブレット端末を一気に導入させていただいて、いよいよ中学校はこの1月から既に運用の開始に入っております。小学校はこの3月からということで、私は、今月の22日にその運用している授業を見させていただくということで、先生をお願いして、現場の方へ行かせていただきます。

もちろんICTということで、人と離れた状態でも使えるコミュニケーションツールとして非常に重要であります。実際に顔を見て話をすることも、やはり人間である以上、人と人とのつながりというのは、やはり大事な、重要なことであると考えます。そういった点も忘れないようにしながら、ICTの活用ということを教育現場で推進していただければと思います。

本日の総合教育会議では、今年度策定をいたしました新たな教育大綱についての最終報告をさせていただきます。委員の皆様のご協力により、とても素晴らしい満足のいく大綱が出来上がりました。来年度からは、この新しい大綱のもとで、子どもたちが「元気」に「笑顔」で、未来に「希望」を持って学習していけるようにしてまいりたいと考えておりますので、皆様のご理解とご協力を賜りますよう重ねてお願い申し上げまして、私のあいさつとさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いたします。

2 議 題

(1) 第2次刈谷市教育大綱の最終報告について

- ・第2次刈谷市教育大綱の最終報告について資料1により説明

(2) 意見交換 テーマ「今後の刈谷市の教育に求めること」

<以下各委員等意見要約>

鶴田委員

前回の教育大綱の検討からいろいろ考えてみまして、今回、非常に良い教育大綱が出来上がったと考えています。先の5年間の教育大綱は、実はずごく学校の先生たちにも浸透しているという実感を持っていて、先生方もそれに則って教育を進めていただいているという認識をしておりますので、是非今回の大綱についてもこれをよく認識していただいて、教育を進めていっていただければと思っています。

その中でも特に私として興味がありますのは、先ほど市長のお話にもありましたICT教育についてです。本当に今、世の中の流れというのは非常に急でして、我々でも思いもよらないような部分があるのですけれども、そのような社会環境の中で、ICTというのは、子どもたちの生き抜く力というのか、子どもたちの可能性にとって非常に有効で重要な位置づけにあると考えております。幸いにして、この刈谷市では、他市に先駆けてという表現でよろしいのでしょうか、タブレットを全員が活用できる環境を整えていただき、ハード的には準備をしていただいている、今、活用段階に入っているのではないかと考えています。そういう意味では、このタブレットをうまく使って、子どもたちにこれをツールとして活用していただきたいと思いますと考えています。あとは、これに関わるモラルというのでしょうか、そういうことについても、是非、学校教育の中で取り組んでいっていただいて、子どもたちにとって有効な手段となるように活用していただければと考えています。

あともう1つ、教育大綱を考えていく中で、「徳育」の部分が非常に重要ではないかという感覚を持っております。人と人との関わりということで、そもそもGIGAスクールの中でそのような話も出てきていたのですが、基本的には子どもの徳の部分の教育というのは家庭教育の中でいいのではないかと考えております。では、学校教育の中でどのような教育をしていったらいいのかを考えると、学校というのは家族ではない、他人が集まって、そこでコミュニケーションを取りながら、先ほど市長から「顔を合わせて」というお話もありましたが、やはり家庭では教育しきれない部分ではないかと考えておりますので、そういう意味では、人と人との関わり、社会というものを体験しながら、子どもたちの人を思いやる心というのか、そういう部分を育てていただけるような教育をしていただければ、今後、より温かい子どもたちを育てていくことになるのではないかと考えております。

浅井委員

まず、今回の大綱で決まったことですが、本当にいろいろなことが網羅されていて、「共に生き 未来を創造する子ども」という子ども像に向かってやっていただきたいなというのと同時に、また我々もいろいろな学校訪問をさせていただく際に、実施しましたという

報告とともに、その結果、何がどう変わったのかというところまで、お話いただければより分かりやすく、また、より目標に近づくのかなと、非常に期待しております。子どもの教育に関して言えば、未来の創造というものは、素晴らしいものを生み出すということだと思いますが、今回のコロナでもそうなのですが、今後想定外のことが起こるかもしれないという世の中で、今までの価値観だけではなく、新しいことを見つけて、「斬新だな」とか、他の人から見ると「なんで？」と思うようなことでも、もしかしたらひっくり返ってそれがすごく有効なことになるかもしれないので、そういった多様性ですとか、新しいことを子どもたちが臆することなく発言できたり、言えるような環境をつくってあげたいと思います。多様性を認めると言ってしまうと簡単かもしれませんが、柔軟な発想が、今後、子どもたちには必要になると思います。あとこのコロナ禍に関わることもかもしれませんが、貧困格差ではないですが、今回こういったところで家庭内の格差が、もしかしたらまた大きくなったところもあるかもしれません。よくニュースとかで東大の進学率と親の年収が比例しているなんていうことを聞いたことがあります、そういうことは、やっぱり子どもは親を選べないので、できれば年収関係なく、子ども本人の努力と進学率が比例するような、そういった教育が刈谷でもできたらと思っています。あと最後に、今回大綱で目標を決めさせていただいて、我々ですとか、学校の先生方とも共有していくのですが、「共に生き 未来を創造する子ども」というのは、家庭としても目指す姿でもあると思っています、その目標の共有化が今後できるといいと思います。何となく現状は、学校も家庭も双方の顔色を窺っているような感じで、親も何か言えば“モンスターペアレント”と思われてしまうのではないかと、学校も何か言うと親からクレームが来るのではないかと、お互いに何だか顔色を窺っているようで、でも目指す目標は一緒なので、学校だと学校内の社会の考え方で目標に向かっていて、学校の外であれば学校の外の社会の考え方があって、そこをうまく融合して目標地点はあくまでも一緒だということで、情報共有し合ってお互いの考えを融合して最終目標を一緒にして手を携えてやっていけたらいいのかなと思います。そうしたらもっと学校と家庭が寄り添うのではないですけども、良い方向につながっていくのかなと思います。以上です。

小川委員

教育大綱を読ませていただきまして、健やかな子どもたちを育てようという目的で、知・徳・体・礎の4つの分野にわたって、よくわかりやすい大綱だと思いますので、これに向けて我々も協力できるところは協力させていただきたいと思っています。ちょうどこれができた時がコロナという想定外の大きな災害というか、災難というか、非常に大きな問題があったのですけれども、それに関係なく子どもたちを育てていかなければいけないというのは、我々大人の務めかなと思いますけれども、幸い充実した教育環境ということで、市長さんはじめ刈谷市の行政のみなさまに、タブレットの話とか、ずっと熱中症の問題もあってエアコンとか、ずっと取り組んでいただいて、非常に環境は整ってきたのですけれども、やはり、これをどうやって使っていこうかと、非常にまだまだ、ちょうどウィズコロナということでやってきた感じの、今、時期だと思うのですけれども、これから先は、アフターコロナで、たぶんがらっと我々の生きている社会も変わっていますけど、たぶん教育の世界もこうやっ

てICTが急激に普及して教育の仕方も変わっていくと思いますので、ぜひこれを元にしてこれから先、教育の世界がどのように変わっていくのかということで、期待しておりますので、我々の立場でいろいろ学校の教育現場を見させていただいておりますので、世の中が変わっていく、本当に教育大綱のスタートの時期に務めさせていただきましたので、楽しみにしてその後の教育を、私は去年からこの委員を拝命しておりますけども、任期期間中にどれだけ変わっていくのかを楽しみにして見させていただきますので、よろしく願いいたします。この大綱をみなさんの力で作っていただきまして、ありがとうございました。

石田委員

本当に今日私が述べる話は当たり前のような話ですけれども、当たり前が当たり前ではないということ気付かされた1年でありました。勉強や運動の成績が良ければそれだけでいいという保護者さんってあまり聞いたことがないのですけれども、やはり人として素敵であってほしい、正しい心を持ってほしいというようなことは、学校の教育だけではなく、やはり鶴田さんのお話にもあったように、学校・家庭・地域の連携、家庭教育が非常に大切だと思いますが、各家庭の教育環境は様々で、中には子供たちの育成を阻む家庭環境があることも事実です。そういった観点を踏まえて、刈谷の子どもたちの今後の教育に向けて意識してもらいたいなあ、と思うことをいくつかあげてみます。子どもたちが自発的に考えて、自分から積極的に発信や発言ができるようになることが大切だということ、そして生きることは勝ち負けで決まることではないということ、人の意見を上手に受け止めて前向きに解釈すること、良き雰囲気をつくれる力を身に付けてほしいこと、うまくいかなかったことがあっても失敗と捉えずに経験と理解して次へ向かう切り替えができること、違った意見の交換が素晴らしいことだと捉えて自己肯定できること、もしこういった教育を目指せるとするならば、教員の方々が心身ともに健やかで正しい判断ができるし、その状況が必要だなと感じています。教員の方々にとって余裕のない状況があるならば、余裕の持てる働き方を真剣に話し合っていて実行していくべきだなと考えています。先生方には子どもの意見や気持ちのそのままを受け入れていただけたらと思っています。子どもが学校の主役であることを意識し、可能性を心から信じ、愛情深くやさしい表情で接していただければいいなと思っています。そんな教育に携わる大人たちの姿勢、私たちの日頃の姿勢なのですが、それが大切だなと感じています。子どもも一個人ですので、自分で選べるという自由があるとともに、年齢によってはそこに責任が伴うという教育をしていかなければならない。自分のことも周りのことも大切にする、愛情ある育成が必要だと思っています。今後も柔軟性があって創造豊かな刈谷市の教育を目指して行って、ますます地域に開かれた学校運営を希望し、期待したいと思っています。また、毎回のことですが、私たち大人は、子どもたちの夢を叶えるための環境づくりを目指していくべきだと考えています。子どもたちが心身共に健やかで心豊かに、そんな毎日を送ってもらえる教育を目指して、「元気・笑顔・希望のまちづくり」に新しい風を吹かせていただけたらと思います。

金原教育長

新しい教育大綱が策定されます。本当にこれまで、教育委員さん、事務局の皆様方のおかげで大変すばらしい大綱が出来上がったと私は思っております。特に、わかりやすく、具体性があって、読んでいだけで子どもの姿が浮かんでくる、そういう大綱はなかなかないと思います。そのまま学校現場に伝えることができる大綱でありますので、本当にこれから5年間は楽しみになっています。「共に生き 未来を創造する子ども」という素晴らしい子ども像が設定されています。子どもたちが様々な立場を理解してお互いに認め合って、お互いに尊重し合う、そういう願いが「共に生きる」というところに書かれていて、そして明るい未来を創っていく、明るい刈谷の未来、明るい自分の未来を創っていくという願いが「未来を創造する子ども」という風に表現されていると思っています。「創造」という言葉は、何度も何度もチャレンジして新しいものをつくり上げていくという意味で、まさしく刈谷の風土に合っている言葉だな、本当に素晴らしい子ども像が設定されたなと思います。そして、今からは、この4月から、全教職員、また地域の方々にもご協力をいただいて、みんなでこの子ども像に迫っていきたいと思っております。4月からまた学校訪問等で、全部の学校を回り、全職員にお会いすることができます。全職員に対して、私の言葉で、または教育委員会として、この子ども像を伝えていきたいと考えています。同時に、やはり学校だけでなく、家庭や地域が一丸となって、子どもたちを育てていきたいと思っております。それこそ市長さんが願う礎でございますが、この礎づくりのためにもみんなで一緒に頑張っていきたいと考えています。また、皆様方、これからもご協力をよろしくお願いいたします。

刈谷市長

先ほどから、知・徳・体という言葉が出てきておりますが、特にやはり徳の部分は、形づくりが難しいとは思っています。ひょっとするとICTでも学べるのかもしれませんが、やはりこればかりは人と人がつながる中で心の中に生まれてくるのかなと思います。よくアフターコロナと言われて、人と人とのつながりが何となく薄れていくようなイメージがあるのですが、やはりその部分については、顔を見合わせたりしながらはぐくんでいくものなのかな、と思います。今年の春、職員の前で挨拶をさせていただいたのですが、その時に歴史学者の磯田道史さんが、司馬遼太郎の「花神」という、大村益次郎さんのお話ですが、ちょうど100年前のスペイン風邪の後、その時にみんながどのように考えていたかなどが書かれた小説の書評の中で「何を元に戻し、何を变えるのか、今年はそれをじっくり考える年」であるというようなことをお話されていて、私はまさにそうだなと思ひまして、これからはコロナ禍にあつてそれが終わった後、終わりつつある中で、本当に何を元に戻して、これはもう変えていくのだという、そういうことをじっくり考えていくのだという、今はそんな時なのだなと感じております。加えて教育大綱ができたという中で、またコロナということ意識しながら、ICTだとかいろいろ教育環境がかわっていくわけですがけれども、やはり何でも元に戻すというのではなく、大事にするものは大事にするということで、教育に臨んでいきたいなと思ひますが、抽象的な話で恐縮なのですが、やはり「徳」というのは教育といいですか、教えることがなかなか難しいという気がします。ひょっとすると背中で教えるというものなのかもしれませんが、やはり人間形成上、非常に重要な要素の一つでありますので、学

校現場だけではなくて、家庭の中でもそういったことができるように環境を整えていければと思います。

3 その他

令和3年度総合教育会議 年1回を予定